

『和歌山県移民史』に見る田原村の移民*

はじめに

和歌山県は全国でも6番目**に多くの移民を送り出した県です。特に紀南地方は多くの移民を送り出した地域として有名です。そのため、各地の市町村史には移民のことが書かれていますし、移民にまつわる偉人伝も数多く伝わっています。中でも昭和32年に発行された『和歌山県移民史』には和歌山の移民の歴史が詳しくまとめられています。千ページを超える厚い本なのですべて読むのは大変ですが、今回は田原に関するところを紹介したいと思います。

*海外移住や出稼ぎとも言いますが、ここでは仕事を求めて海外に渡り、一定の期間生活した人たちを広く移民と呼びたいと思います。

**1位 広島県(96,181人) 2位 沖縄県(67,650) 3位 熊本県(67,323)
4位 福岡県(50,752) 5位 山口県(45,050) 6位 和歌山県(30,365) 1899-1937の累計

石川友紀『日本移民の地理学的研究』榕樹書林

移民の行き先

和歌山県移民史を見ると、和歌山の人たちがどのようなところに渡っていたのかが分かります。昭和15(1940)年の和歌山県では次のようになっています。

| | | |
|---------|---------|-------|
| 全体 | 22,268人 | |
| アメリカ合衆国 | 12,467 | |
| ブラジル | 4,080 | |
| カナダ | 3,254 | |
| オーストラリア | 638 | 外務省調べ |

また、和歌山県の統計で同じ昭和15年の東牟婁郡〔※旧串本町は西牟婁。田原は東牟婁郡古座町〕をみると、

| | | |
|---------|---------|--------|
| 全体 | 19,809人 | |
| 東牟婁 | 5,620 | ※県内最高 |
| アメリカ合衆国 | 2,446 | |
| ブラジル | 914 | |
| 満州 | 463 | ※中国東北部 |
| オーストラリア | 443 | |
| カナダ | 373 | |

となっています。

では、田原村の場合はどうでしょうか。すこし古い資料になってしまいますが、明治20～31(1887-98)年までの数字が移民史に掲載されています。

| | | |
|---------|------|-----------|
| 合計 | 160人 | |
| アメリカ合衆国 | 132 | |
| ハワイ | 13 | |
| カナダ | 10 | |
| オーストラリア | 5 | 田原村役場保存帳簿 |

和歌山県からは実にさまざまな国へ行っています。表にはありませんが、フィリピン・インドネシアなどの東南アジア、ペルーやメキシコなどの中南米、ブラジルでもアマゾンにも移民として渡った人たちがいるのです。

主な移民先は、ハワイ*にはじまり、アメリカ合衆国・カナダの北アメリカ、南米のブラジル、オーストラリア北部が挙げられます。

移民先については、時代によって変化します。アメリカ合衆国やカナダでは大正時代にピークを迎えますが、移民が制限され、昭和の時代に入ると減少し、最後には移民に行けなくなります。逆にブラジルはアメリカ・カナダでの制限が厳しくなる頃から増えていますし、大戦後に移民に行った人たちもたくさんいました。

また、郡や村、場合によっては地区でもどこに行くかは違っていました。後で移民の理由のところでも述べますが、呼び寄せとあって、最初に行った人がきっかけで移民が続いていく場合、その最初の人はどこに行ったのか？ということが大きく影響しました。

田原の場合、圧倒的にアメリカ合衆国が多かった**ようです。

*ハワイは明治31(1898)年アメリカ合衆国に併合されました。

**移民史によると、田原村で最初にアメリカ合衆国に渡ったのは高尾鶴松さんという方で明治(1888)年のことでした。サンフランシスコで英語を学び、仕事をした彼が故郷の田原村の人たちを呼び寄せました。

移民の理由

どうして海外にまで渡ったのでしょうか。確かに和歌山、特に紀南地方は平野も少なく、生活するには厳しい土地でした。また、当時次男や三男に生まれると親からの財産を引き継ぐのは長男なので、自立するまでには厳しい道のりでした。

田原村の田中音松さんは、日清戦争〔明治 27(1894)年〕が終わってアメリカに渡る人が増えた当時のことを次のように言っています。

「当時日本では農業や山仕事、漁業や船乗りをしても収入はごくわずかで、一回でもアメリカに渡れば仕事もたくさんあって、お金も倍以上もうかると言うので、連絡を取り合って先に行っている人を頼りにつぎつぎと渡った。」筆者意識

しかし、移民の理由は決して貧しさだけでは説明できません。例えば、同じく田原村の荒木英二郎さんは

「和歌山県は耕地が少なく、海岸線が長くて、沿岸に住む人たちは海に対する親しみが深い。下田原でも帆船の時代には船が 20 隻以上もあって、小学校を出ると船のコックになるのが理想だった。海に出て、よそに行くことは怖いどころかむしろ好んでいた。だから、外国に行くのは隣村にでも行くようにしか思わなかったのも当然だと思う。」筆者意識 と話しています。

紀南地方の人たちの場合、海に暮らすことが移民への後押しになっていました。オーストラリアでは真珠貝とりという潜る技術の高さが活かし成功した人もたくさんいました。さらに「向こうに行っても〇〇のお兄さんがいる！」のも心強いことでした。

このように移民の原因はその土地の文化や気質なども合わさった複雑なものなのです。

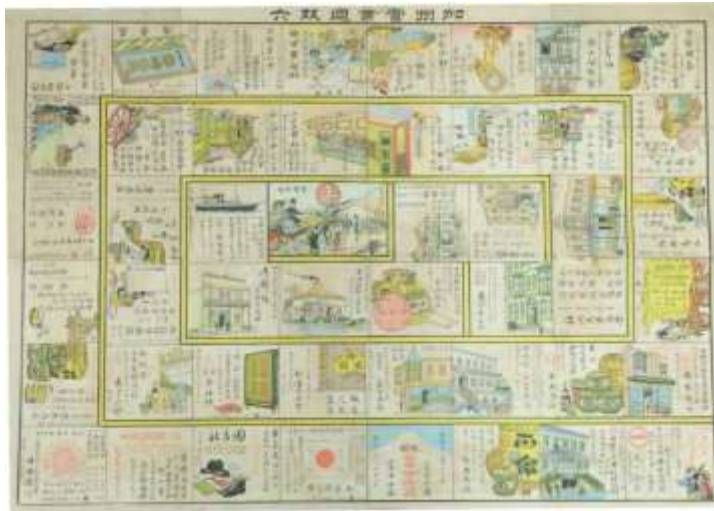
アメリカに渡って

明治 20～31 の記録では、どのような職業についていたかも分かります。

| | |
|------|-------|
| 合計 | 160 人 |
| 鉄道労働 | 60 |
| 農業 | 33 |
| 伐木 | 7 |
| 漁業 | 4 |
| その他 | 56 |

田原村役場保存帳簿

加州實業廻双六



日本人がアメリカに渡って仕事をする人々に知られていました。

和歌山市民図書館移民資料室 蔵

鉄道労働は 1869 年にはアメリカ合衆国の西と東を結ぶ大陸横断鉄道が開通していましたが、まだまだ鉄道は整備中でした。割合英語ができなくてもできる仕事だったので、線路づくりに携わった人が多かったようです。

そして、田原村は半農半漁の村でしたので、アメリカでも多くの人々が農業・漁業の仕事につきました。このあたりのことは「田原小学校メモリアル」にある「ターミナル島 移民の歴史」「田原移

民史ルポタージュ」をご覧ください。

ここでは移民史に集録されている下田原の広井辻之助さんのお話をまとめたものを紹介します。

「明治 26(1893)年、イギリスの船で 30 日も揺られてアメリカに着いた。サンフランシスコで検閲を済ませて、伯父の出迎えを受けてサクラメントに行った。木を伐る仕事を 3 ヶ月間、その後鉄道の仕事で長く働いた。この頃アメリカには米・しょう油は本当に少なくてなかなか手に入らなかった。アメリカ人には米なんか食べて働くのかと笑われた。

明治 28 年は雨が少なく暑かったが、病気もせずにせっせと働いているとアメリカ人が感心して、日本人は米を食べるから強いのか？とからかったらしい。その後、土地の開墾をしていたが、テキサス州で米作りをしていることを聞いて、そこで米作りをすることになった。種まきなどすべて機械で行っていた。」

田原の人に限らず、日本人は農業でとても丁寧な仕事をしたので、野菜や果物作りで活躍しました。

みなさんも立ち寄るかも知れないすさみ町江住にある「エビとカニの水族館」は旧江住中学校体育館ですが、この建物はレタスづくりで大成功した南弥右衛門さんが寄付したものです。

日本とアメリカのはざま

もちろん言葉も通じない、食べ物や習慣もまったく違う中での生活の苦勞がどれほどだったのか、今の私たちには想像することさえも難しいものです。それでも多くの移民の方々が仲間とともに道を切りひらいたことは、移民史をはじめ、さまざまな本や証言の中に残されています。

しかし、もっとも大きな困難は日本とアメリカ、2つの国の間で生きることでした。アメリカ、カナダでは日本人の移民が増えてくると、日本人をアメリカ社会の中に入れてくれない排日の動きが強くなります。

原因はいくつか考えられます。もともと白人の人たちはアジアの人を低く見て差別する感情が強くありました。体つきも違いますし、ことばや宗教も違ったからです。さらに日本人は安い給料でも良く働くため、逆に白人の仕事を奪う存在でもあったのです。

日本人は土地を持つことができず、何年住んでいてもアメリカの国籍をとることもできませんでした。日本からの移民も制限されて、ついに大正13(1924)年には日本からの移民は不可能になります。

アメリカの日本人はこのような状況の中、日本人でありながら、アメリカの社会の一員としても生きていく道を選ばなければなりませんでした。

そして、1世*の人たちの希望は2世**たちでした。2世はアメリカの国籍を持ち、土地も所有することができたからです。

日本人移民をもっとも苦しめたのが太平洋戦争でした。日本との戦争が始まると、財産を処分させられ、強制収容所に入れられました***。これは同じ敵国であったドイツやイタリア人には行われませんでした。

収容所の中では比較的自由な生活ができたようですが、これまでの生活や財産を奪われ、まさに戦争という国と国の対立の中で犠牲となったのです。さらに収容所では日本に対する感情の違いから、1世と2世の対立が生まれました。また、2世の中にはアメリカ兵として両親の祖国と戦う選択をしなければならない人もいました。

* 日本から移民に行った人 ** 移民先の国で生まれた人

*** 1988年レーガンアメリカ大統領は強制収容所の謝罪と補償を行っています。

ワリザー先生のこと

「田原小学校メモリアル」にある「ターミナル島 移民の歴史」にワリザー先生のごことが紹介されています。彼女は排日が激しくなる中でも日本の文化を大切にしながら、日本人移民の子どもたちの教育を行いました。

ワリザー先生に限らず、たとえどのように国と国の対立が激しくなっても、互いの国を理解しようと努力した人がいたことは忘れてはいけません。

移民の歴史を通して

和歌山でも移民を経験された方からお話しが聴ける機会はかなり減ってきています。また、移民先でも3世、4世、5世と世代が進み、日本との交流も少なくなってきました。和歌山が移民県であることも知らない人が増えてきているように思います。

幸い田原小学校には「大鈴」、ワリザー先生来校の写真という目に見える教材があります。是非、一度移民のことを勉強してみたいと思います。

そして、日本はこれから人口が減っていきます。その分、海外から日本に働きに来る人が増えるだろうと予想されています。

移民の歴史の勉強は、日本人移民の人たちが味わった苦労を逆に私たちがこれから日本に来る人たちに与えないための大きなヒントを与えてくれるはずです。

《移民の学習》

- ・和歌山市民図書館移民資料室

少し遠いですが、移民関係の本を置いている珍しい図書室です。ホームページもあるので是非見て下さい。

- ・ディスカバー・ニッケイ ホームページ <http://www.discovernikkei.org/ja/>

日系移民かたのインタビューを見ることができます。英語で答えているインタビューがほとんどですが、日本語訳も載っています。

- ・JICA 横浜 海外移住資料館 <http://www.jomm.jp/>

移民に関する展示の情報などが得られます。